

〔短信〕

ことばを通してこころを磨く

忙な毎日ですが、今後も目の前の生徒と向き合いながら、ことばを通してこころを磨いていきたいと思えます。

栗本 祥平

(くりもと しょうへい 岐阜県立岐阜商業高等学校)

私は信州大学で近代文学を専攻し、卒業後故郷の岐阜県で高等学校の教諭を目指しました。2年の講師生活を経て採用され、教諭として今年で6年目を迎えました。現在の勤務校で3校目になります。現在の勤務校はさまざまな部活動が全国にその名を轟かせている実業高校で、部活指導に多く時間を割きつつ、社会に出て必要な読み書きや語彙を中心に国語の授業を展開しています。しかしながらどこかで、時代を超えて感じられる心の機微や名作と呼ばれる作品を通して生徒の心をゆさぶるような経験をさせたいという情熱を持ち続けています。これは高校生の時に自分が漱石の『こゝろ』を読んで感動した経験と、学生時代にゼミ生全員でひとつの小説をテーマに自分の考えを深めたり、仲間の考えやその視点に瞠目したりした経験が原点となっているように思います。多